

2023 年度絵本学会役員選挙

現役員の任期満了にともない、理事選挙を実施いたします。今回はオンライン投票といたします。

投票期間は**2024年1月31日(水)**までです。

選挙結果は、選挙管理委員会が開票集計し、絵本学会ホームページと『絵本学会NEWS』78号で公表の予定です。

理事10名のうち7名は正会員の選挙で選出。会長(候補)は理事の互選によって決定し、会長(候補)推薦による事務局長(候補)と3名の理事(候補)を含む新理事会は、6月の総会での承認を経たうえで正式に発足します。

【投票手順】

① 下記候補者10名の略歴をご覧ください。(裏面に続きます)

② Google フォームを開きます。(QRコードもしくはURLからアクセスしてください)

③ 選挙の公平性・匿名性を期すため、**会員番号**をご記入ください。

会員番号は今回送付された封筒の宛名シールのお名前の下に掲載されています。846で始まる10桁の番号です。半角数字でご記入ください。なお、準会員の方は投票をお控えください。

④ 10名から**7名以内**を選出し、チェックボックスにチェックをして送信してください。

8名以上は無効票になります。投票の手順は以上です。

<https://x.gd/s3U9b>



【理事候補者】(アイウエオ順)

生駒 幸子 (いこまさちこ)

龍谷大学短期大学部准教授。

専門は光吉夏弥による絵本翻訳の研究、戦中・戦後における翻訳絵本の歴史研究。

主要業績に「絵本翻訳の変遷についての考察—光吉夏弥の絵本翻訳の独自性—」白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集22(2019年3月)、川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林(2013年)。博士(人間科学)。

かわ こうせい (かわこうせい)

静岡文化芸術大学デザイン学部教授。

専門は、絵本イラストレーションの国際比較、人工知能を活用した画像解析と生成。研究成果をイラストレーションの制作プロセスに還元しつつ絵本表現を探究。主な絵本に『Deborah's Tree /デボラの樹』(Lerner、米国、2022年)、『The Tigon and the Liger /タイゴンとライガー』(Lantana、英国、2016年)、『Rifka Takes a Bow /リフカのおじき』(Kar-Ben、米国、2013年)など。

佐藤 博一 (さとうひろかず)

京都芸術大学教授(大学院芸術研究科)。

京都工芸繊維大学大学院修了後、視覚設計学を専門とした教育・創作・研究に携わる。絵本に関する共編著は『絵本の事典』(朝倉書店2011)、『絵本でよみとくSDGs』(水声社2022)、「別冊太陽」126・301(平凡社)。絵本学会では2012~18年に理事、大会実行委員(第8・16・17・19回)を務めた。意匠学会、日本展示学会、日本児童文学学会にも所属。

竹内 美紀 (たけうちみき)

東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科准教授。

同志社大学法学部、松下政経塾、フェリス女学院大学大学院卒。博士(文学)。専門は英語圏児童文学の翻訳と絵本理論、『石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか』(ミネルヴァ書房)で2014年日本児童文学学会日本児童文学学会奨励賞を受賞。著書に『石井桃子：子どもたちに本を読む喜びを』(あかね書房)、訳書に長編ファンタジー『スレーテッド①~③』(祥伝社文庫)など。

永井 雅子 (ながいまさこ)

東京学芸大学他、非常勤講師。

絵本学、小学校英語教育を専門とし教員養成や教員研修に従事している。

『ベーシック絵本入門』『絵を読みとく絵本入門』（共著、ミネルヴァ書房）、「哲学的なテーマのある現代絵本の可能性」（単著、絵本学会編『絵本学（20）』など）。国際児童文学学会他、海外での口頭発表（2007, 2015, 2017, 2018）。絵本学会機関紙編集委員（2010-2018）、（一財）語学教育研究所研究員（2011-2014）現在は会員、英語圏児童文学学会、日本児童英語教育学会に所属。

馬見塚 昭久 (まみづかあきひさ)

常葉大学保育学部准教授。

専門は絵本論、日本児童文学。主な著書に『保育実践に生きる「言語表現」』（2020年）、『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（2022年）、主な論文に「子どもの心に寄り添う絵本の仕組み―葉祥明『ぼくのべんちにしろいとり』について考える―」（2020年）、「絵本『風とひょう』(葉祥明)について考える―声なき声に導かれた存在の原点への旅―」（2022年）等。

水島 尚喜 (みずしまなおき)

聖心女子大学現代教養学部教授。（造形美術教育学）

日本美術教育研究会会長、絵本学会理事、美術科教育学会理事、公益財団法人美育文化協会理事、NPO法人CCAA理事、才能開発教育研究財団評議員、文科省検定教科書「図画工作」代表著者、イタリアETN教育研究学会学術委員、ボローニャ大学客員教授など。

共訳書にE.W.アイスナー『美術教育と子どもの知的発達（黎明書房）』。編著書『造形教育実践全集（日本教育図書センター）』、監修本『かがくいひろしの世界（ブロンズ新社）』など。

宮崎 詞美 (みやざきことみ)

横浜美術大学イラストレーション研究室 絵本専攻 教授

専門分野：絵本、イラストレーション、グラフィックデザイン

京都市立芸術大学大学院後期博士課程修了 博士（美術）朝日新聞社編集局デザイン部デザイナー、大阪教育文化振興財団こどものための博物館キッズプラザ大阪指導員、神戸芸術工科大学非常勤講師など務め現職。ボローニャ国際絵本原画展入賞、KSCS BEST COLOR AWARD 受賞など。日本国際児童図書評議会（JBBY）会員

村田 あゆみ (むらたあゆみ)

名古屋女子大学文学部児童教育学科教授。

専門は絵本、昔話、児童文化。勤務校では保育者養成に携わっている。近年の研究テーマは「三匹のこぶた」の受容研究。特に保育現場における流布版の成立過程について、童話集、絵本、紙芝居等の出版資料の調査や分析を通して研究を行っている。「保育現場に流布する「三匹のこぶた」のルーツに関する一考察（2）―川崎大治のテキストの検討」（児童教育論集）他。

山本 美希 (やまもとみき)

筑波大学芸術系助教。

筑波大学人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士（デザイン学）。ガブリエル・バンサン『アンジュール』やショーン・タン『アライバル』に代表される言葉のない絵本における物語表現を中心に、絵本表現に関する研究を行う。マンガやイラストレーションの創作も手がけ、近作に『かしこくて勇氣ある子ども』（リイド社）、『すきなことなあに？』（エンブックス）がある。絵本学会機関誌編集委員（BOOKEND2019～2021）、絵本学会理事（2020～2023）。

【監事候補】

監事候補者は2名でしたので無投票となりました。

杉浦 篤子 (すぎうらあつこ) 石井 光恵 (いしいみつえ)